

3. 第3回研究会（2002年3月16日、於星陵会館）

谷 今回、研究部会としては第3回の集まりで、今年度はこれで多分最後で、あとはレポートのまとめをやらなければいけないと思いますので、よろしくお願い致します。

まず最初は、締め切りの最後の提出期限、この話から先にしておきますと、最初は3月7日ということで、当然年度でやっていますので、スタートしていたのですが、いかんせん作業がどうしても遅れ気味になると、インタビューの相手がなかなかこちらと時間が合わなくて、殆ど3月末にやることになってしまいましたので、河野さんの方からお願いして頂いて、4月末ということで……頂きましたので、ひと月猶予が出ました。それでも今からひと月半急ピッチでやらないとまとまらないと思いますので。今日は、今までどういうことをやってきて、どのぐらい進んできているかということと、その内容について、どういうふうにまとめていこうか、ということをお相談させて頂きたいと思っています。

1枚めくって頂きまして、5枚組の目次案件があります。作業は私共の方で、伊藤さんと吉川さんと私と若い子3人でやりますので、若干執筆をお願いしたいと思っています。

それで、1章から8章まで章立てを一応してみました。これは後の内容とも絡みますので、後で議論して頂きますけれども、最初に「はじめに」ということで、一般論とこの研究の位置付けのような話。それから、第2章で市民アンケートを実施していますので、その調査を分析して、それから市民の安全意識というものをあぶり出してみようと。

それから、3章目は専門家インタビュー。これは実はまだ完了しているのは一つだけですが、あと3名ぐらいはもう予約を取れているので、あと2名何とか4月中に全部完了したいということで、これから医療専門家の意識、市民の意識とどの位ずれがあるかということも見たいと思っています。

それから、4章ではマスメディアの影響。多分、市民は大分マスメディアに影響されているだろうという我々の仮説に基づいて、マスメディアの方を調査して、市民意識との関係を見てみたい。

それに基づいて、5章、6章は、5章で何が意識の上で安全を脅かしているのかということ、6章として、それに対してどういう施策をとっていったらいいのか、というようなところをまとめて、最後に伊藤先生に、5ページも書いてくれないと思いますが、数ページだと思いますけれども、お願いしてあります。まず、全体のまとめを私が書いて、その後に伊藤先生にコメントを頂く。

それから、資料編としてアンケートの回答を設問ごとに単純に分析集計したものと、それから、専門家インタビューをできるだけ全文に近いようなものを考えています。

それから、マスメディアの検索結果。これは今までのデータを、本編に入れるとそこだけ非常に膨らんでしまいますので、後ろに持ってきました。ということで、大体300ページ位になるのではないかと思います。

次についています2枚は、これは平成14年度も継続でやってはいかがですかと言われたので、しかも1週間以内に役所へ出せということで、相談している間がなかったもので、私が独断でやってしまいました。非常に間口を広くして、今研究で出た結果を受けてやるという形にしてあります。

次の2枚はA3になっていますね。これがアンケート集計です。ぎりぎり読める範囲で縮小していますが、多分読みにくいと思います。ついでにそれをどなたかにやって頂いて…。

吉川 票数を増やすんですか。

谷 奥さんでも、娘さんでも。200票欲しいと思ったんですけど、今、180何票なんです。あと十数票欲しいので、2、3票ずつとって頂くと有難い。

設問が、そこにありますように、A、B、C、Dと四つのブロックに分かれていて、Aは属性を聞いているわけです。Bは社会の安全に対する割と一般的な質問で、記憶に残っていることを言ってもらおう。Cになって今度は具体的な事例を出して、どのぐらい知っているかということを書いてもらって、その中から特に印象に残っているものを三つ選んでもらうということをやっています。Dは、途中でテロが起こってしまいましたので、それを一緒に同列にすると、テロがダントツになってしまうと思ったので、テロは外して別項目にしました。テロはどうして起こったかとか、どう思うかということを書いてもらっています。

かなり記述式で、しかもある程度テレビなり新聞をよく見ていないと答えられないので、結構白票が返ってきちゃったんです。今までのところ、大体450票配りました。主に配り方としては学生に10票位ず

つ渡して、できるだけ色々な人に送ってくれと頼みました。地域はどうしてもうちの学生ですので中部中心ですが、関西から東北ぐらいまで割と広い範囲で、年齢もある程度ばらついて取れています。ただし、学生で配ったから回収率がいいかなと思ったのですが、実際には白票が結構戻ってきてしまっていて、それを無効票と見るか、配らなかったと見るか、その辺によって数え方が違ってくるのですが、一応、何か書いてあるけども何も答えていないというのを無効票にして、全く白票は返ってこなかったと同じ扱いにしました。

そうすると、現状は450票弱配って180票ちょっと上回る位。まだぼつぼつ返ってきていますので、今日も吉川さんから3票頂きましたけれども、あと5票位あれば200票の大台に乗るので、そうすると、最初に企画書に500票配ることとしていますので、あと50票位集めて何とか200の大台に乗せたい。そうすると回収率が4割ですから、そんなに悪くないと思います。

それで、A3の2枚が実は最後につながるわけですけども、これは21番までしかデータが入っていませんが、現実には今全部180幾つまでデータを入力しています。フロッピーに入れて持ってきたんですが、どうも学生がマックへ入っていて、私のウインドウズでやろうとすると開かなかったんです。

伊藤 拡張子は？

谷 拡張子をつけても。

伊藤 つけても駄目ですか。バージョンが違うのも知れない。

谷 かも知れないですね。今日その全結果をお見せすることができなかったのですが、そういうことなので、今、メールで集計状況を学生に送らせましたので、御報告します。

まず住所でいきますと、北海道・東北が1です。北陸が…で一番多いですね。関東60、中部22、関西12、四国・九州6、無記名が9あります。

それから、性別は男109、女64。173しか…。年齢は20歳未満5、20～25が48、25～30が28、30～35が20。職業はまだ集計できていないものですから…。

奥田 無記名はその…。

谷 無記名でも…書いてある。

奥田 無記名ではなくて無記入ですね。白紙に近い形で、それは落とすとおっしゃっていましたね。我々とはとにかく相手に渡ったということであれば、有効票に入れてしまうのですけれど。

谷 有効票というのは、配布したという方ですね。それには入れています。

奥田 そうですか。

谷 Bの1について、安全を誰が脅かしているかというのは、1が43票、2が108票、3が33票、4が79票、5が114票、6が80票、7が30票、8は9票ですね。

伊藤 Bの4ですね。

谷 …。

伊藤 Cです。

谷 「知っているもの」にいきますと、1が72、2が23、3が122、4が116、5が99、6が167、7が22、8が116、9が110、10が130、11が112、12が53、13が126、14が27、15が80、16が41、17が69、18が96、19が34、20が68という結果ですね。

伊藤 あとはDの1、2、3。

谷 Dの1、1番が12、2番が7、3番が75、4番が16、5番16、6番1、7番13、8番5、その次は…33、…45、…7という結果ですね。

大体、伊藤さんの予期した結果になっていますか。

伊藤 予想通りです。ちょっと意外だったのは、Cの(18)の事件。これは余り知らないかなと思ったら、96人も知っているというのがちょっと意外でした。ほかの数字は大体私の予想通りでした。意外と外国人に敏感なのかなという感じがします。

谷 外国人の事件はよく覚えている。

伊藤 沖縄のアメリカ軍の…。

谷 あと記入欄がまだ全然集計できていないので、さらに記入欄を。

吉川 自分でやってみて結構難しかったよね。余り記憶していないのが多いですからね。

谷 友達のお母さんが怒っちゃったという話が、「こんなの知らないわよ」と怒り出したぐらい、難しか

ったと思います。

奥田 記入者の地域別というのは、どういうふう地域を…。

谷 どうしても金沢近辺が多いですね。金沢近辺と、北陸という括りはしないですけども、北海道・東北が1、関東が60人、中部が95です。半分は中部になります。関西12、中国・四国6、無記名9。

伊藤 九州はゼロということですね。

谷 中国、四国、九州でまとめてあります。少ないところを少しまとめないと。北海道・東北は何でこんなに少ないのかな。青森出身の者に頼んだんだけど。手近でやっちゃったのかも知れない。

奥田 こういうのは大都市圏が中心になるんだけど、……………ふうになるんですけど、それを読む時に……………どこに住もうが、その事件の認知度みたいなものは……………出るものなんですね。要はマスメディアに報じられるという形で。

伊藤 さっき目次案であったマスメディアの影響というところで、特にこの事件、キーワードで一応選んでいるんです。例えば「外国人犯罪」とか「児童虐待」みたいなものですけども、そういうキーワードのマスメディアに対する登場回数とこれの認知度というものを、少し相関を見てみようというふうを考えました。

吉川 マスメディアの登場回数というのは、日経テレコムでわかるでしょうが、その認知度というのはどうやってわかるんですか。マスメディアの登場がよく日経テレコムなんかでキーワードを検索すればわかりますよね。それに対する認知度というのは、日経テレコムの中ではわかりませんよね。また別にそれをもって誰かにアンケートでやるということですか。

伊藤 いや、それとこれを比較してみようかなと。

吉川 ああ、なるほどね。

伊藤 これが一応私の方でバランスを考えて選んで、例えば殺人事件ばかりではなくて、通り魔的なものとか、子供の実態とか、ある程度バランスを考えて選んでいます。そのキーワードとここの認知度。

吉川 言葉として対応させるわけですね。

伊藤 はい、そうです。

谷 結局、一つの事件がどのぐらい出ているかというのがありますけれども、似たような事件、例えば外国人犯罪ということに関しても、通り魔ということでも括ったりして、その認知度も一緒に測ってみようということですか。

吉川 もう一つ、自分がやってみたときの印象としては、強盗雑人というのが凄く多いのだけれども、例えば東京にいと、色々な話題としてはこういうものも含まれますね。例えば歌舞伎町のビル火災なんてあるでしょう。ああいう話題って結構多いものですから、ああいう感覚と殺人というのは僕の頭の中では同じ位のウエイトなんです。だから、設問を聞いていて、聞かれた側としては、ウエイトが大分違うという印象になるのではないかなと、僕は自分でやって思ったんですけど。

谷 ただ、Bの方の設問で、それぞれのカテゴリーで印象に残る事件を挙げてもらっていますので、歌舞伎町火災は結構出ています。

吉川 大きいでしょうね。

谷 こっちからも補足的につかめるので。書き方がそれぞれ違って、統一するのが結構大変なんです。「歌舞伎町火災」と書いているかと思うと、新宿何とか事件と書いてあったり、同じものだというのがやっている学生の知識に大分影響されるので、そばにいて、常に聞かれて答えながら入れさせているという。「テルクハノル」がわからなかったんです。「テルクハノル」って何でしたか。京都の小学校に入って殺したやつでしたか。

伊藤 そうですね。何とかモドキ神というのがありましたね。あれは神戸の少年ですね。

谷 2ページに備考欄がありまして、そこにわからないのは入れさせていますので。

伊藤 この備考というのは、作業者の備考ですか。

谷 そうです。入力している時に、不確かだったらここに書いています。

伊藤 なるほど。必ずしも一人がやっているわけではないんですね。

谷 ええ、二人。一緒に最初やらせていました。法式はわかった上で作業問題に当たれるように。

それから、市民アンケートですね。これは色々面白い結果、私も色々面白いなと思ったのがいっぱいありますので。

あと、インタビューの方は、日本女子大の清永先生にインタビューができて、インタビューの項目としては、まず、日本は安全な国かどうかという基本的な意識をお聞きして、その安全が脅かされているのか、それとも、そうでもないのかとか、いつ頃どうなっているかという話をまず聞いて、大体安全な国だということはおっしゃるだろうということで、どういうところが安全というふうに評価できるのか、ということも2番目に聞いています。それから、3番目として、安全が脅かされているとすれば、どういう観点が一番脅かされているのか。どういう種類の、どんな理由から、どんな事件が問題か、あるいは事件ではなくて状況、どんな状況があるのか、ということをして、それに対してどういう対策をとるのが一番いいか。それから、あとは補足的に何でもお話しくださいと。大体1時間位です。

伊藤さんなんかとよく話していますので、それとそんなに最初の方は違った話が出てこなかったのですが、一つ外国人の問題で言っておられて、今問題なのは、今いる外国人も、その外国人の子供が青年になりつつある。教育を受けていない。日本語もあまりしゃべれない。職が得られないから悪いことに走る。帰国させても、今度そっちでも生活できない。そういう状況が一番潜在的な問題であるということをおっしゃっていたんですね。

奥田 新宿、池袋に住むブラジルなり中南米から来た人の場合には、子供が嫌がるのを無理して連れてきた。しかしその子供がどうしても学校に馴染まなくて、仕事もつけない。

谷 帰ってももう駄目なんですよ。

奥田 一所懸命、対策としては、地元へ帰っても困らないように、ブラジルの学校が横浜にできるとか、色々訓練をする。逆に日本にというよりも、帰った時の、帰すというふうにやっているけれども、それも駄目ですよ。両方中途半端になっている。それで結構、行動力がありますから、その中で飛び抜けている子もいるけれども、問題がこれから出てくるなというふうに思います。ドラッグ関係に染まっていないということがあれだけ、アメリカだったらドラッグの問題と関わってくる…。

谷 朝鮮からかなり入っているという情報もありますしね。

奥田 怖いですよね。またお金になるでしょう。

谷 外貨を稼ぐには一番いいんじゃないですか。

奥田 一番そういう子供達にとっての稼ぎの問題でもある。自分がその常習者というのではなくて。

谷 そういうような話を伺いました。今、テープを起こしていますので、テープが文章になったら、また皆さんにお配りしたいと思います。

それと、予定としましては、清永先生は終わって、2番目の倉田先生は私の非常に近い友人で、アメリカの都市計画、特に西海岸の辺のことに詳しいので、ちょっとアメリカの観点から日本の弱点みたいなものを語って頂こうかなと思っています。

それから、小出先生は伊藤（滋）先生の一番弟子で、この分野の専門家ですので、伊藤（篤）さんがよく知っているということでお話を伺いました。

それから、西山先生は、最近、都市の危機管理ということで、阪神・淡路大震災以来、日本の都市計画が災害に脆いということを指摘されて、色々本を書かれて、私もよく知っている方なので、まだ確約はとれていないのですけれども、今まで色々うちもやってあげたので、嫌とは言わないだろうと言うか、という観点で頼むことにしているのですけど。

それから、藤野先生は伊藤（篤）さんからの推薦なんですけれども、どういう専門家ですか。

伊藤 もともとは東大の土木で橋梁の専門家なんですけれども、実は来年度から東大の土木も少し学際的に都市のセキュリティというものを考えるということで、地震のリスクとか土壌のリスク、不動産のリスク、それから私がやっているような都市空間のリスク、こういったものを東大土木の都市基盤整備の分野としてやっていこうということで、実は先週、初めてのシンポジウムがありまして、私の方から都市の安全について話してくれとお願いされて、この前お知り合いになったばかりですけども、そういう危機意識を持った先生なので、この前お付き合いさせて頂いて、その場でやってくれるということで、そういった観点から少し新しいことを語って頂こうかなということをお願いしようと思いました。

谷 最後の山口先生は、4月の5日か6日にもう約束してあるのですけれども、サイバーセキュリティ、ネット関係の専門家だということで、この観点もちょっと扱っておいた方がいいかなと思って、知っている先生が少ないものですから。

ネットの中での問題もありますし、ネットを通して犯罪に結びつくということ、例えば伝言ダイヤルと